



医療福祉生協連

2024年3月12日 発行



「社会保障とは何か？」を、身近な事例から考えた！ ハイブリッド・健文会「社保まちづくり学校」に54名参加



メイン会場の山陽小野田会場



山口市事務所会場

2月29日、健文会「社保まちづくり学校」を開催し54名が参加しました。今回のテーマは「医療生協に求められる共同の力、運動、実践、誰もが安心して暮らせるまちづくり」としました。生協小野田診療所をメイン会場とし、宇部ー山口ー下関会場の計4会場をZOOMでつなぎ、初のハイブリット開催で行いました。

学校では、中本事務局長より「社会保障・自助、共助、公助」の問題提起でスタート。つづいて各支部や職場でつかんでいる社保事例報告や活動実践をリレーでつなぎました。山陽小野田地域からは「まちづくり型の社会保障実践報告」が（大村理事）よりありました。「市内の福祉の湯が廃止となり、入浴難民が今後生まれる可能性が大きい、運動につなげる必要があること、そして食材支援やYoriYoriカフェを通じて、地域のなかで多世代が気軽に集える居場所づくりを広げたい」と報告。地域福祉室メロスからは、相談活動を通してつかんだ社保の困難事例報告（森山室長）、つづく山口地域からは阿東地福の「NPO法人ほほえみの郷トイトイの活動紹介」（松林理事）、「高齢者の買い物難民をなくすために、相談活動を兼ねた移動販売、高齢者の居場所となる拠点をつくりなど、過疎地域における地域まるごと健康づくりの実践紹介がありました。宇部地域からは、「学校給食費の無償化をすすめる宇部市民の会」（洲村代表）より、日本国憲法と子どもの権利条約に基づいて、街頭宣伝活動で署名集約をおこない宇部市や教育長に要請している報告がありました。下関地域からは「地域医療構想について・下関市の公立病院統廃合から見えてくること」（山口県生健会・村田事務局長）、「2病院の統廃合についての住民向け説明会が不十分であること、400床未満の新病院になった後、安心安全の医療提供体制がどうなるか？医師確保を始め、経営や労働者の雇用環境が守れるのか？」など問題提起がありました。進行はコーディネーター（近藤理事）とパネラーによるディスカッションが展開され、問題点や課題をより掘り下げることができて、理解を深めることができました。



宇部会場の様子



参加者の感想では、「初めて参加した、今まで知らなかった社保事例や各地の実践を学ぶことができ、発見につながった」「見えていない社会の根本的な貧困問題が身近な生活圏にあるということに驚いた」「年2～3回実施してほしい」「若い参加者向けのテーマもぜひ検討してみては？」など、寄せられました。

なお、当日はZOOM環境のトラブル等もあり、一部の発表が途絶える場面もあり、参加されたみなさまにご迷惑をお掛けしました、今後の改善につなげていきます。